

J R加古川駅南の寺家町商店街で毎月1回開かれている「寺家町蚤の市」が7月3日、通算100回目の節目を迎える。シャッターを下ろした店舗が目立つ同商

加古川

店街を盛り上げようと10年前から始まり、今では市民や常連客の間で定着。99回目だった5日は、そぞろ歩きする客や多彩な店舗でにぎわった。(辰巳直之)

# 寺家町商店街盛り上げ10年



## 雑貨や軽食など多彩に約30店舗

蚤の市は2006年10月2、8月以外の毎月第1月に始まり、最近は一、日曜に開いている。加古

川を中心に京都や姫路からも出店者が集まり、あくセサリーなどの雑貨や軽食、ボン菓子、マッサイジなど多種多様な店舗が30店前後も並ぶ。一時は5、6店舗しか出ない時期もあったが、常連の出店者が知り合いに声を掛けて新規参入を募り、盛り返してきたという。参加費500円(移動販売車は千円)で、気軽に店を出せる。

90回以上出店しているという北条元良さん(37)は、カエルやタコなどをかたどった個性的な編

5日に開かれた99回目の蚤の市。活性化へ意気込む出店者ら  
ら加古川市加古川町寺家町

## 出店者ら交流の場にも

み物を店頭に並べる。「ほかの出店者との出会いが楽しい。創作意欲が湧き、アイデアも浮かぶ」と、交流の場としても活用する。タロット占いの藤原正子さん(40)は「この商店街を知らなかった人も来てくれるようになった」と喜ぶ。商店街側も、活性化に期待を寄せる。運営をサポートする洋服店「ベル」の立岩成晃さん(51)は「出店者さんたちの積み重ねが100回につながった。商店街のシャッターが開くのはもちろんうれしいが、周辺地域とともに盛り上がってくれたら」と話している。

午前10時〜午後3時。当日は軽トラの荷台に地元産野菜などを並べる「軽トラ市」も同時に開く。出店希望者は6月26日までに同商店街振興組合事務局に申し込む。事務局 ☎079・422・2477

# 蚤の市来月、通算100回目